

平成27年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立久喜工業高等学校)

目指す学校像	自分創りを目指し、望む進路実現を図り、真の感動を味わえる”こころ・技・からだ”が育つ学校 -①もの創りの”こころ”と”技”を身につけた人づくりを目指す。 ②知・徳・体のバランスのとれた人づくりを目指す。-
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 個に応じた学力と技術力の向上を推進する。授業態度の確立を図る。授業内容の充実を図る。資格取得等を奨励する。 基本的生活習慣の確立と向上を推進する。欠席、遅刻、早退の減少を図る。服装、頭髪指導の徹底を図る。挨拶と正しい言葉遣いの励行を図る。 個々の生徒に応じた進路指導を充実する。生徒の職業観や勤労観を育成するとともに、進路希望に応じたきめ細やかな指導を行う。地域の信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。 中学生やその保護者に積極的な情報提供を行う。小学校との交流及び地域の行事等への参加。
------	--

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	8	名
	生徒	3	名
	事務局(教職員)	11	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価				年 度 評 価 (1 月 2 8 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	
1	<p>・昨年度、成績優良者は増加したが、欠点数と成績不振者数も増加した。今年度は、欠点数減少のために引き続き基礎学力の向上に取り組むとともに、成績優良者を増加するための取り組みを実践することが課題である。</p> <p>・資格取得に関しては、全校で取り組み、資格取得表彰者数が増加してきた。今年度も引き続き、生徒の学習意欲を向上させるとともに、資格取得状況を把握するシステムを改善することが課題である。</p>	<p>授業改善、学力向上</p> <p>①基礎学力向上のための取組</p> <p>②資格取得の意欲喚起</p>	<p>①基礎学力向上のための取組を、各教科・学科が計画・実施・検証を行う。 ① 調査以外のテストを実施し、生徒が学習に取り組む意欲を喚起し、自身に自分の学力を把握させるとともに、その後の学習指導に活用する。</p> <p>②各学期毎に、生徒に資格取得状況を把握させるための一覧表を配布し、生徒が新たな資格取得に向けて意欲的に取り組むようにする。</p>	<p>①基礎学力向上の取組を1学期に、成果と課題を3学期に一覧表にまとめて保護者に配布する。 ①欠点数、成績不振者数を前年度より10%減少させる。</p> <p>②資格取得状況を把握する一覧表を各学期に配布する。 ②高校生専門資格等取得表彰者数を10%以上増加させる。</p>	<p>①学期当初に、各教科・学科ごとに基礎学力の向上に向けた具体的な取り組みをまとめ、一覧にして保護者に配布した。成果と課題については3学期中にまとめ、保護者に配布する予定である。 ①1学年は欠点数、欠点数ともに増加したが、2・3学年では欠点数、欠点数とも減少し、学校全体では、欠点数12%、欠点数者3%増加した。 ②資格取得状況を把握するシステムを運用し、不具合を修正するとともにいくつかの資格を追加した。 ②高校生専門資格等取得表彰者数は、昨年と比べ、31.3%増加した。</p>	<p>達成度 B</p> <p>次年度への課題と改善策</p> <p>・継続的に各教科ごとの基礎学力向上に向けて取り組むと共に、指導方法を検討する。 ・成績不振者は、特に1学年で人数・欠点数共に大幅に増加した。取り組みを検討することが課題である。 ・資格の表彰基準の変更があり、システムの更新が遅れた。教務部、電算部、工業科で連携を取りながら対応する仕組みづくりが必要である。 ・今年度専門資格等取得表彰者数が大幅に増加した理由は、機械科で技能検定への新たな取り組みを始めたこと表彰基準が変更されたことが大きい。次年度は更なる指導により表彰者を増加させることを目指す。</p>
2	<p>・ここ数年、遅刻撲滅指導に重点的に取り組み、毎年、500回ほどの減少傾向である。平成20年度、約7000回あった遅刻が、昨年度は延べ2100回であった。今年度は、さらに遅刻指導に重点を置いた生徒指導を行うことが課題である。</p> <p>・生徒指導に関係した、1年生の進路変更も出ている。入学直後から全教職員が連携してきめ細かい指導を行うことが重要である。また、生徒への指導が一部の教員に偏ってしまう傾向があるため、全教職員が共通理解のもと、組織的に指導に取り組む体制を作ることが課題である。</p>	<p>生徒指導</p> <p>①基本的生活習慣確立のための遅刻指導の重点的・継続的な実施</p> <p>②進路変更・退学者を出さない、問題行動を起こさせない指導の充実を図る取組</p>	<p>①全教職員が参加する遅刻指導週間を、年間を通して実施する。 ① 登下校時のマナー向上、非行防止、交通安全を目的として、全教職員による登下校指導・巡回指導を行う。</p> <p>②進路変更・退学者の減少、問題行動を未然に防止する指導体制を確立するために、生徒指導部が中心となり、担任・学年・学科と連携を図り、整容指導や生徒との面談指導を行う。 ②いじめや嫌がらせの防止のため、生徒アンケート及び、生徒・教職員対象の講演会、研修会を実施する。</p>	<p>①遅刻指導を年間10週以上実施する。 ①遅刻者総数を昨年度比15%以上減少させる。 ①登下校指導・巡回指導を年間10回以上実施する。</p> <p>②進路変更、退学者数を昨年度比5%以上減少させる。 ②問題行動(指導件数)を昨年度比5%以上減少させる。 ②整容指導を年間5回以上実施する。 ②生徒対象いじめアンケートを実施する。(7月・1月) ②生徒対象いじめ防止講演会を実施する。(10月) ②教職員対象のいじめ防止研修会を実施する。(11月)</p>	<p>①生徒指導部主体の遅刻指導を年間11週実施した。しかしながら、遅刻は微減、微増を繰り返したが、やや減少した。 ①登下校時に保護者参加の挨拶運動を12回実施した。また、全教職員による登校、下校指導を12回実施した。 ②学年を中心としたきめ細かい指導を行った結果、進路変更をする生徒が昨年同時期に比べ、20%減少した。 ②問題行動(指導件数)は倍増してしまった。 ②生徒対象いじめアンケートを2回実施した。 ②生徒対象いじめ・ネット講演会を講師を招いて実施した。 ②教職員対象のいじめ防止研修会を講師を招いて実施した。</p>	<p>達成度 A</p> <p>・遅刻と問題行動の減少を目指し、重点的継続的に指導に取り組む。特に、常習生徒を減少させる必要がある。 ・登下校について、スマホ等の使用、挨拶について、社会的なマナーを身につけさせる指導に取り組む。 ・進路変更する生徒は1年生が大部分を占めるため、入学直後から全教職員が連携してきめ細かい指導を行うことが重要である。また、中学校との連携を図り、不本意入学を減らし、目的意識を持った生徒を入学させることが課題である。</p>
3	<p>・本校では、未就職者を出さない指導として様々な方策を行ってきた。その結果、ここ4年間、就職率・進学率100%を達成している。ただ、進路意識が十分でなく就職や進学内定に時間の掛かる生徒も一部出ている。そのため、入学当初より学年と協力して計画的に進路指導を行うことが課題である。</p>	<p>進路指導</p> <p>①就職率・進学率100%の実現</p> <p>②学年と協力し進路ガイダンスの充実</p>	<p>①企業側との面談を強化する。(情報収集の強化) ①進路指導部内での情報共有を強化する。</p> <p>②進路指導部と学年との連携を強化する。 ②インターンシップにおける企業連携の強化及び開拓をする。 ②進路ガイダンス内容を再検討し強化する。</p>	<p>①就職率・進学率100%を実現する。 ①求人件数を25%増加を実現する。 ①企業来校数を20%増加を実現する。</p> <p>②進路指導部と学年が連携して進路指導を充実させる。 ＜1学年＞進路講演会を実施する。 ＜2学年＞進路ガイダンス、保護者対象の進路説明会、インターンシップ、各種職業検査を実施する。 ＜3学年＞進路ガイダンス、全教職員による面接指導、各種職業検査を実施する。</p>	<p>①就職内定率100%達成。 ①求人件数 18%増加。 ①企業来校件数 25%増加。(1038件)</p> <p>②＜1学年＞進路講演会を実施予定。 ＜2学年＞進路ガイダンス、保護者対象の進路説明会、インターンシップ、各種職業検査を実施した。 ＜3学年＞進路ガイダンス、全教職員による面接指導各種職業検査を実施した。</p>	<p>達成度 A</p> <p>・国際情勢や国内の経済状況により昨年に引き続き就職希望者は100%内定を決めることが出来た。但し、初回の内定率は70%と前年と変わらず、引き続き各学年との連携を強化し早い時期に生徒一人一人の進路への興味・関心を引き出す努力を行う必要がある。</p>
4	<p>・中学生や保護者及び地域住民が、本校の教育活動に興味や関心を持ってもらえるような取り組みが必要である。工業高校の「強み」を前面に押し出してPRすることで、学校のイメージアップを図ることが課題である。 今年度は、生徒募集のために、学校説明会や体験入学を見直し、入学志望者への学習支援やHPを活用した情報発信で「開かれた工業高校」づくりに取り組むたい。 また、引き続き地域の小学校との連携の強化を図り、地域の高校として地域社会に貢献することが必要不可欠である。</p>	<p>開かれた工業高校づくり</p> <p>①学校内外への積極的な情報発信を行い、学校理解を進めて、志願者数を確保する</p> <p>②地域に根差した工業高校として、様々なイベントに参加し、地域に貢献する。</p>	<p>①中学生や保護者及び地域住民に、本校の教育活動をHPや紙面のPR資料を用いて知らせることで積極的に情報発信する。 ①生徒定員確保に向けて、近隣中学校に対する出前授業や進路行事への参加等を積極的に行う。また学校説明会では、5教科の学習相談を行う。 ①学校教育活動の情報や非常災害時の連絡を、メールで保護者に発信する。</p> <p>②地元商工会や小学校等との連携を図り、地域の高校としての貢献度を高める。</p>	<p>①学校HPのアクセス回数を昨年度比10%以上増加させる。 ①学校PR資料を毎学期作成し、市内中学3年生に向けて配付する。 ①全学科参加で中学校への出前授業を実施する。また、進路行事にも積極的に参加して、入学志願者数を昨年度比5%以上増加させる。 ①メールの保護者配信登録は90%以上をめざし、テストや行事前(月1回程度)の情報発信を行う。</p> <p>②地域の行事参加や小中学校及び児童センターとの交流等で年間10回以上対外的な活動を行う。</p>	<p>①HP更新数は、昨年比28%減の131回。アクセス数は5%減の30,319回であった。(12月現在) ①学校PR資料(久喜工だより)を年4回発行、学校説明会や体験入学の参加生徒情報を中学校訪問時に提示し、学校説明会(昼8、夜3回)と体験入学(8、11月)に、のべ848名の中学生が参加した。(12月現在) ①中学校の出前授業を5校で実施(前年比1回増)、中学校進路行事へは11回参加した。 ①メールへの保護者登録は94%である。 ②久喜市のまつり2回、商工会イベント1回、小学校との交流授業2回、児童館出前授業1回、中学校の出前授業を5回、市議会だより協力、女性議会、食育祭り、PRビデオ等に参加して地域住民と交流し、地域の高校として認知度を高めることができた。</p>	<p>達成度 A</p> <p>・学校説明会と体験入学で計14回の生徒募集行事を行い、またHPによる積極的な情報発信や地域の小・中学校との連携を図り、本校の教育活動を積極的にPRしてきたが、まだまだ「わかりやすい」学校づくりのための創意工夫と積極的な活動が必要な状況にある。今後も地域の高校として、各学校や各種イベントに向いて説明会や出前授業を行うなどして積極的にPRし、生徒募集につなげることが課題である。</p>

学校関係者評価	実施日 平成28年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・成績不振者を減らすためにも、生徒の学習に対する動機づけがあるとよい。また、資格取得がうまくつながると良いのではないかと。 ・表彰に関する基準が変わったということが、生徒にも保護者にもしっくり伝わると良い。校内の掲示やHPで取得状況は伝えているが、そもそもの表彰の仕組みや各生徒がポイントを何点保有しているかがしっくりわかる方がよい。また情報は生徒だけでなく保護者にも伝わると良い。</p> <p>・7年位前に7,000回あった遅刻が2,000回にまで減少している。これ以上減らすためには、家庭との連携がさらに重要である。 ・校内のスマホ、携帯電話の使用規制がうまく出来ているのはとても良い。またネットやスマホの使い方などで警察や携帯電話会社と連携してよく指導されている。 ・問題行動については、生徒の学力面なども関係しているのではないかと。</p> <p>・求人が多いのは、久喜工業が評価を得ているからである。働きながらの資格取得は大変なので在学中が良い。資格ありだと即戦力で雇ってもらえる。 ・離職している卒業生の状況をつかむことで、在校生の就職指導で事前に活かせることはないか考えた方がよい。 ・インターンシップの回数や日数を工夫し、企業選びで生徒が体験をもとに比較検討できると良い。</p> <p>・お祭りなどで運行しているエコトレインは、生徒が手馴れていてきばきどしている。先生方の指導も良く、主催者は助かっている。 ・小中一貫教育の取り組みは進んでいるので、今後は高校との連携授業などがあったても良い。技術家庭科あたりが良いかと。 ・文化祭の雰囲気や昔と比べてもかなり良い。展示内容も良く、説明する生徒もきちんと対応してくれた。理系離れというが、見て楽しい感じがする。工業高校に行きたくないのでないかと。</p>